

三社祭齋行700年祭

浅草寺本尊示現会

# 舟渡御

平成24年3月17日(土)・18日(日)



## 日程

平成24年3月17日(土)

- 午前10時00分 舟渡御齋行式典(大祭) 齋行  
----- 浅草神社社殿
- 午後5時00分 宮神輿神霊入れの儀 齋行  
----- 浅草神社社殿・神輿庫
- 午後6時00分 奉納舞踊「清元三社祭」  
----- 浅草寺五重塔前
- 午後6時30分 宮神輿三基 浅草神社出発  
----- 浅草神社境内
- 午後7時00分 本堂「堂上げ」  
----- 浅草寺本堂階段・外陣
- 午後7時45分 法要  
----- 浅草寺本堂内陣



平成24年3月18日(日)

- 午前9時30分 本堂「堂下げ」  
----- 浅草寺本堂外陣・階段
- 午前10時30分 浅草神社氏子四十四ヶ町 移御[山車]  
---- 宝蔵門→伝法院通り→馬道通り→言問通り→  
吉野通り→小松橋通り→国際通り→浅草通り→  
並木通り→雷門→江戸通り→東参道
- 午後12時30分 東参道栈橋到着  
----- 東参道栈橋
- [乗船準備]
- 午後2時00分 舟渡御 齋行  
----- 隅田川  
(東参道栈橋～桜橋～浅草見附～驹形橋)
- [上陸準備]
- 午後3時00分 驹形橋到着  
----- 驹形橋
- 午後4時00分 驹形堂 法要  
----- 驹形堂
- 午後5時30分 宮神輿三基雷門前安置  
----- 雷門
- 午後6時00分 宮神輿渡御  
----- 仲見世→本堂前→浅草神社境内  
浅草神社到着・神輿庫安置  
----- 浅草神社境内
- 午後7時00分 宮神輿神霊返しの儀 齋行  
----- 浅草神社神輿庫・社殿

※日程及び順路に関しては今後変更となる場合があります。

毎年五月斎行され浅草に初夏を告げる三社祭は、正和元年(1312年)に三社の神話に基づき行われた「舟祭」がその起源と云われています。

そして、来る平成二十四年(2012年)には三社祭斎行七百年という記念すべき佳節の年を迎えます。これを慶賀して、浅草神社及び浅草神社奉賛会は、浅草観光連盟を始めとする関係団体の御協力のもと、この度「舟祭」を『舟渡御』として同年三月に再現・斎行する運びとなりました。

浅草神社の氏子崇敬者の皆様におかれましては、浅草誕生、浅草寺建立の神話に基づき行われるこの行事が、盛大にかつ無事成功裡に斎行されますよう、絶大なる御支援・御協力を賜りたく切にお願い申し上げます。



## 舟祭概要

江戸時代には、御縁日である三月十八日の大祭前夜(17日)浅草神社の御神体がお移りに営られた一之宮・二之宮・三之宮三基の御神輿を観音本堂外陣に「堂上げ」にて安置し、観音様と三社の三人の神様に共に一晩を過ごして頂きました。また、この時には、「神事びんざさら舞(現在都民俗無形文化財)」が堂前の舞台で奉演されています。

聖大祭当日(18日)には、各町会より山車が観音本堂前に参詣の上、各々の趣向でその絢爛・豪華さを競い合い芸能を演じ、隨身門(現在の二天門)を出て自分の町へ帰りました。

その後、御神輿三基が「堂下げ」にて本堂外陣から降ろされると、一之宮を先頭に浅草御門(現在の浅草橋際)の舟乗り場迄担ぎ運ばれました。そして待機している大森(品川)在住の漁師によつて供奉される舟に各御神輿が乗せられ、浅草川(現隅田川)を漕ぎ上がった後、形岸或いは花川戸岸から上陸の後、浅草神社に担ぎ帰られたと云われています。

当時は浅草寺と一体となった行事で、「観音祭」又は「浅草祭」とも呼ばれていましたが、江戸末期にとある理由により廃絶し、昭和の時代に一度斎行されたものの、明治以降は御神輿が氏子各町を渡御するのみとなりました。



## 浅草寺本尊示現会「堂上げ」・「堂下げ」

平成十二年には、浅草寺の仏事である「浅草寺本尊示現会」において、古式「舟祭」の一部である浅草神社本社神輿三基の浅草寺本堂「堂上げ」「堂下げ」が斎行され、一夜奉安する神事が、浅草の氏子の手によつて復活しました。

これは広く内外に浅草の歴史やその起源を広めると共に、浅草の町の更なる発展を祈願する神事として、三月中旬から下旬にかけて今日迄毎年斎行されています。

仏事と神事が同時に行われるこの行事は全国的にも稀であり、神仏分離以前の浅草に根付く風習・文化・伝統が再現されると共に、毎年五月に行われる浅草神社例大祭(三社祭)へのプロローグでもあります。



■堂上げ

■堂下げ





四神旗

## ■舟渡御



### 各行事時程

午前10時30分  
浅草四十四ヶ町移御

午後2時00分  
舟渡御

午後6時00分  
仲見世渡御

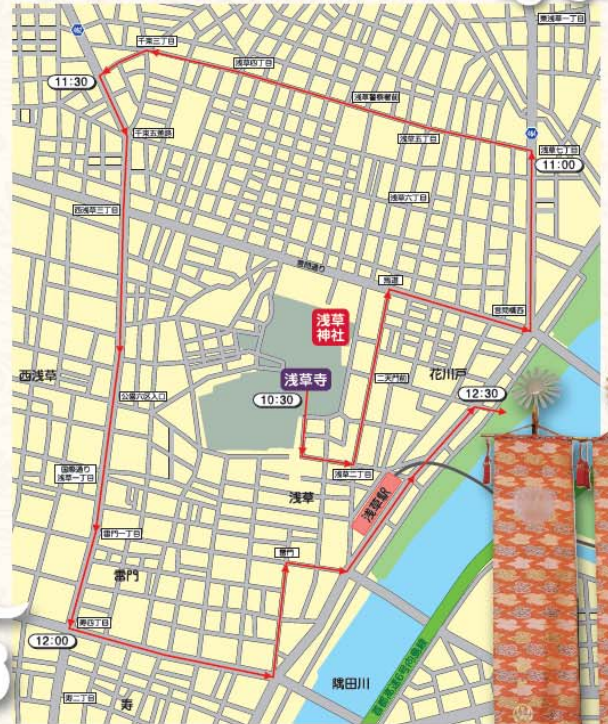


スカイツリー

平成24年5月開業。隅田川周辺の最新スポット。日本の伝統文化との融合を意識させた造りになっています。

## 宮神輿 渡御順路

## ■浅草四十四ヶ町移御



日月旗



雷門

天慶5年、平公雅により創建。当初は駒形に有りましたが、鎌倉時代に現在の地へ。現在の門は、昭和35年に松下幸之助氏により復興再建されました。宮神輿三基が安置される場所となります。



駒形堂

推古天皇36年3月18日に隅田川より聖観世音菩薩さまを感得したゆかりの地に建立されたお堂。別名「こまんどう」とも呼び、毎月19日に御開扉され参拝できます。舟渡御の上陸場所付近となります。



## 寄稿

平成二十四年三月十七日・十八日、三社祭齋行七百年祭を記念して三社の神輿の舟渡御が行われました。この舟渡御は江戸時代から行われていました。それが明治時代以降に途切れていましたが昭和三十三年十一月に浅草寺本堂再建落度を記念して復活されました。

今回五十三年目に再復活し齋行されますが、昭和三十三年の舟渡御に参加された人は殆どおらず当時の写真が浅草観光連盟に何枚かあっただけで、残っている資料を参考にして企画を進めました。その中に出光美術館に残っている江戸後期に描かれた屏風絵に観音祭の舟渡御があったのでコピーを頂きそれが非常に参考になりました。舟渡御の話が出初めて約二年、ようやくなんとかまとまりました。

ただ、五十年前と比べ隅田川の形態や舟の仕様も変わり、又、様々を規制ともあって、それらをクリアするのになんらかの担当の方の苦勞は大変なものでした。

氏子四十四ヶ町はもとより応援して下さいの方のお力添えにより盛大に齋行出来そうです。

当日は三社神輿三基は、新しく出来た東参道の棧橋から台船三艘に鎮座され採橋から浅草橋の御門の近くで折り返し、駒形で上陸され駒形堂で御供養したのち、四十四ヶ町の青年部の方々に担がれて雷門から浅草寺本堂、浅草神社に戻ります。

この舟渡御は隅田川に縁のある大森の「規定」さんの御協力により二十艘の舟を連ねて盛大に行われます。

こうした伝統の行事が浅草寺・浅草神社を中心として行われ、五月二十二日に墨田区のスカイツリーの完成記念行事とも相まって、浅草はじめ両区が益々発展するものと願っております。

舟渡御実行委員長 吉岡暢久

# 三社祭とは...

### 昔の祭礼(観音祭・舟祭)

昔の祭りは3月17日、18日の両日に行われ、丑、卯、巳、未、酉、亥の1年おきに本祭が行われました。

正和元年(1312)から三社の神話に基づき舟祭が始められたと云われています。江戸時代には大祭前夜、神輿を観音本堂の外陣に安置されました。びんごさら舞も堂前の舞台で行われていました。そのことからわかる通り、当時は浅草寺と一体となった祭りで、「観音祭」又は「浅草祭」と呼ばれました。

祭礼は今のようにならぬ神輿をかつぎ廻ることよりも、むしろ氏子十八ヶ町や、片町、茅町、天王町、黒船町、三好町などから繰り出された山車を中心で、各町がおのおのの趣向で行列の勢いと絢爛さを競い合ったようです。この様に昔の祭礼は蔵前筋や浅草橋の各町にまで及ぶ広範囲のものでした。

祭礼当日の早朝、山車を中心とする祭礼行列は浅草見附の御門外に集合しました。

御蔵前から諏訪町、並木町と並んで仲見世から境内に入り、観音堂に安置された神輿の前に参詣の上、おのおのの芸能を演じ、隨身門(二天門)を出て自分の町へ帰りました。これが終わると「堂上げ」と云って神輿三体を本堂からおろし、一之宮を先頭に浅草御門の乗船場まで担ぎます。待機していた大森在住の漁師の供奉する舟に神輿をのせ、浅草川(隅田川)を漕ぎあがって駒形から上陸し、浅草神社にかつぎ帰ったと云われています。この舟祭は江戸末期まで続きました。明治に入って廃絶し、明治五年から5月17日、18日の両日に祭礼を行い、現在の氏子各町に神輿の渡御を行うようになりました。



### 今の祭礼

氏子の四十四ヶ町と浅草組で構成される浅草神社奉賛会により運営されています。

現在では交通事情や各町の情勢変化で、慣例通りの5月17、18両日の大祭執行が不可能となり、昭和38年から17、18日に近い金曜日に神輿神霊入れを行うようになりました。土曜日に氏子各町連合渡御、第三日曜日に本社神輿の各町渡御を行います。例大祭式典、びんごさら舞奉納などもそれに伴い日程が動くようになりました。現在の祭礼は3日間です。毎年約150万人の入出が見込まれています。



### 平成24年度 浅草神社例大祭(三社祭) 日程

<b>5月17日(木)</b>	
午後7時	本社神輿神霊入れの儀式 齋行
<b>5月18日(金)</b>	
正午	大行列 集合(東京浅草組合前)
午後1時	大行列 発進
	西回り 柳通り→千束通り→ひさご通り→浅草六区→雷門通り→雷門→仲見世→浅草神社
午後2時20分	神事びんごさら舞 奉納(社殿)
午後3時	神事びんごさら舞 奉納(神楽殿)
午後3時30分	各町神輿神霊入れの儀 齋行
<b>5月19日(土)</b>	
午前10時	例大祭式典 齋行
午前11時30分	町内神輿連合渡御 集合開始

正午	町内神輿連合渡御 発進	東部十二ヶ町各町神輿 西部十四ヶ町各町神輿 南部十六ヶ町各町神輿
午後4時	奉納舞踏 浅草観光振り袖学院	
午後5時	巫女舞奉奏	
<b>5月20日(日)</b>		
午前4時30分	神幸祭 齋行	
午前6時	本社神輿「宮出し」	
午前8時	本社神輿各町渡御	一之宮:東部十二ヶ町各町 二之宮:西部十四ヶ町各町 三之宮:南部十六ヶ町各町
午後2時	巫女舞奉奏	
午後3時	奉納舞踏 東京浅草組合	
午後4時	太鼓奉演 日本太鼓道場	
午後8時頃	本社神輿「宮入り」	
宮入り後	本社神輿神霊返しの儀 齋行	



## 見所

仏事と神事が同時に行われる行事は全国的にも稀です。

3月  
17日  
(土)



① 奉納舞踊 清元三社祭

浅草神社

天保三年に中村座で初演されたこの演目は、「清元 三社祭」と呼ばれ、三社祭の山車の人形を舞踊化したものです。



② 堂上げ

浅草寺本堂

三社様の御神霊がお移りになった一之宮・二之宮・三之宮の三基の宮神輿を観音本堂外陣に「堂上げ」にて安置し、観音様と三社3人の神様に一晚を御一緒にお過ごしいたします。



① 浅草寺本堂神官祝詞奏上

浅草寺本堂

浅草寺一山式衆による読経と浅草神社神官による祝詞奏上が行われます。仏事と神事を同時に行われるこの行事は全国的にも稀であり、神仏分離以前の三社祭の一部を再現したものです。



② 堂下げ

浅草寺本堂

御本堂に一晚お泊まりされた三社様の宮神輿は、翌朝、「堂下げ」にて御本堂から降ろされます。三基の宮神輿は氏子町会を移御した後、舟乗り場に到着します。



③ 乗船上陸

乗船 東参道栈橋・上陸 駒形橋西詰栈橋

堂下げ後、三基の宮神輿は氏子の皆様の手により運ばれ、東参道栈橋から乗船となり、駒形橋の栈橋で上陸となります。舟渡御に臨む宮神輿を御覧頂くことが出来ます。



④ 宮神輿三基雷門前安置

雷門前

例年の示現会では堂下げ後、宝蔵門前に安置される宮神輿ですが、この700年祭に於いては舟渡御後雷門前に安置されます。三基の宮神輿が雷門前に揃う機会はありません。

3月  
18日  
(日)



## 浅草神社の由緒

推古天皇の三十六年三月十八日のことでした。

漁師の桧前浜成・竹成兄弟が隅田川で漁労に精を出していたところ、その日に限り一匹の漁もなく網にかかるのはただ人型の像だけでした。幾たびか像を水中に投げ捨て、何度場所を変えて網を打つてもかかるのは不思議と人型の像だけなので、最後には兄弟も不思議に思い、その尊像を捧持して今の駒形から上陸し、槐(えんじゅ)の切り株に安置しました。そして、当時、郷土の文化人であった土師真中知にこの日の出来事を語り、一見を請うたところ、土師氏は、これぞ聖観世音菩薩の尊像にして自らも帰依の念心仏体であることを兄弟に告げ、諄々と功德、おはたらきにつき説明しました。

兄弟は初めて聞く観音の現世利益仏であることを知り、何となく信心をもよおされた二人は、深く観音を念じ名号を唱え、「我らは漁師なれば、漁労なくしてはその日の生活にも困る者ゆえ、明日はよろしく大漁を得させしめ給え」と厚く祈念しました。

翌十九日に再び網を浦々に打てば、願いのごとく大漁を得ることができました。

土師真中知は間もなく剃髪して僧となり、自宅を改めて寺と名し、さきの観音像を奉安して供養護持のかたわら郷民の教化に生涯を捧げたといえます。いわゆるこれが浅草寺の起源です。

土師真中知の没した後、間もなくその嫡子が観世音の夢告を受け、三社権現と称し前述三人を神様として祀つたのが三社権現社(浅草神社)の始まりであるとされています。

これによると創建は今を去る千三百年程の昔ということになりますが、平安の末期から鎌倉にかけて権現思想が流行した以後、三氏の末裔が崇祖のあまり浅草発展の功勞に寄与した郷土神として祀つたものであろうと推定されます。

奇しくも明治維新の神仏分離令により浅草寺との袂を分ち、明治元年に三社明神社と改められ、同6年に現在の名称に至ります。

今もなお、「三社さま」として親しまれている浅草神社ですが、元来三人の神様をお祀りしたことからそのように呼ばれています。



■浅草寺本堂

## 浅草神社

〒111-0032 東京都台東区浅草2-3-1  
TEL : 03-3844-1575 FAX : 03-3841-2020  
URL : [www.asakusajinja.jp](http://www.asakusajinja.jp)

### ■ アクセス

- ◆地下鉄/東京メトロ銀座線浅草駅から徒歩7分
- ◆地下鉄/都営地下鉄浅草線浅草駅から徒歩8分
- ◆東武線浅草駅から徒歩7分
- ◆つくばエクスプレス浅草駅より徒歩10分

### ■ 周辺マップ

※当社境内の駐車スペースは限られています。駐車スペースご利用の方は御祈禱を受けられる方のみとさせていただきます。  
なお、駐車の際には駐車許可証が必要となります。